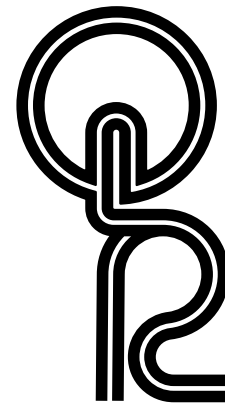


QR Newsletter



第四紀通信

Vol. 13 No.2, 2006



諏訪湖に出現した「御神渡り」、岡谷市小坂の沖合に出現した東西方向の御神渡り(佐久之渡り)(2006年1月13日 公文富士夫撮影)

Vol. 13 No. 2

April 1, 2006

地球惑星科学連合大会の案内・・・2	訃報・・・・・・・・・・・・・・17
創立50周年大会案内(第2報)・・・10	シンポジウム報告・・・・・・・・18
募金のお願い・・・・・・・・・・・・14	評議員会議事録・・・・・・・・19
講習会のお知らせ(第2報)・・・15	幹事会議事録・・・・・・・・・・・・23
集会・セミナーの案内・・・・・・・・16	会員消息・・・・・・・・・・・・・・24
諏訪湖「御神渡り」・・・・・・・・17	

日本地球惑星科学連合2006年大会のお知らせ

[日本地球惑星科学連合ニュース第2号から抜粋]
日本地球惑星科学連合

§ 1 連合大会の概要

会期：2006年5月14日(日)～18日(木)
(5月14日 特別公開セッション)

会場：幕張メッセ 国際会議場

各種受付開始日・締切日

予稿集原稿投稿

2006/1/10(火)～最終締切 2/8(水)12:00
早期締切 2/1(水)17:00

事前参加登録

2006/1/10(火)～ 4/10(月)12:00

各種料金：

予稿集原稿投稿

早期投稿	2006/2/1 17:00まで	1,500円
通常投稿	2006/2/8 12:00まで	3,000円
図掲載	Webアップロード	500円
	郵送	1,000円

事前参加登録申込

全日程券	一般 13,000円	学生 6,500円
24時間券	一般 7,000円	学生 3,000円

当日参加登録申込

全日程券	一般 15,000円	学生 8,000円
24時間券	一般 8,000円	学生 5,000円

** 学部生および70歳以上の方は、投稿の有無に関わらず参加登録が無料となります。

個人でのお支払方法：

個人によるお支払は、予稿集原稿投稿・事前参加登録と同時の、オンラインシステムによるクレジットカードでのお支払いです。(銀行振込・郵便振替はございません)

大会ホームページ：

2006年連合大会に関する情報および各種登

録ページが置かれています。

連合大会ホームページ

<http://www.jpgu.org/meeting/>

詳しくは上記のホームページを是非ご覧下さい。変更内容の情報は随時更新します。

§ 2 セッション案内

第四紀関連 開催セッション一覧

特別公開セッション:(4セッション)

大会初日の5月14日(日)には、中・高校生、一般の方々を対象に、以下のようなセッションを企画しております。詳細は大会ホームページ、プログラムに掲載いたします。また一般向けのポスターを作成し関係機関に広く配布する予定です。ご不明な点などは、事務局までお問合せください。

- ・地球・惑星科学トップセミナー
- ・高校生によるポスター発表もしくは討論会(仮称)
- ・21世紀のフロンティア:宇宙・惑星・生命(仮称)
[テーマ:はやぶさ,火星,月探査,アストロバイオロジー]
- ・日本地球惑星科学連合の学校教育への取り組み(仮称)

セッション開催日:2006/5/14(日)

参加費:無料

参加申込・お問合せ:日本地球惑星科学
連合事務局

レギュラー・スペシャルセッション:(104セッション)

V 火山学

- ・活動的火山
- ・マグマシステムと噴火・堆積機構
- ・火山爆発のダイナミクス

K 岩石・鉱物学

- ・鉱物の物理・化学
- ・岩石・鉱物・資源
- ・オフィオライトと海洋リソスフェア
- ・高強度パルス中性子線による地球惑星科学の新展開

O 計測・探査技術

- ・物理探査学及びその応用
- ・空中地球観測の強化とその応用

S 地震学

- ・活断層と古地震
- ・地震に伴う諸現象
- ・地震発生の物理
- ・地震活動
- ・強震動・地震災害
- ・地震の理論・解析法
- ・地震計測・処理システム
- ・地震予知
- ・地震一般
- ・地盤構造・地盤震動
- ・震源過程・発震機構
- ・地殻構造
- ・陸域震源断層の深部すべり過程のモデル化
- ・震源モデルと強震動
- ・フロンティア地震学の最前線
- ・故安芸敬一博士が拓いた地震学・火山学とその未来像
- ・地殻活動のマッピングとモニタリング
- ・連動型巨大地震の発生様式と長期予測
- ・プロセス検証による地震予知 - 経験則から物理モデルへ -
- ・地震波伝播：理論と応用

H 水文・陸水・地下水学

- ・水循環・水環境
- ・同位体水文学 2006
- ・都市域の地下水・環境地質

W 雪氷学

- ・雪氷学
- ・雪氷圏と気候
- ・コア研究が拓く地球環境変動史

D 測地学

- ・重力・ジオイド
- ・測地学一般
- ・地殻変動・GPS

Q 第四紀学

- ・第四紀
- ・沖積層研究の新展開

C 地球化学

- ・固体地球化学・惑星化学

L 地球環境・気候変動学

- ・古気候・古海洋変動
- ・海と気候 - 観測とモデルによる過去から現代までの変動解明へのアプローチ
- ・地球温暖化防止のための地球惑星科学
- ・生物鉱化作用とその間接指標を利用した低緯度域の環境変動解析

B 地球生命科学

- ・生命 - 水 - 鉱物相互作用の場的実態
- ・アストロバイオロジー：宇宙における生命の起源・進化・分布と未来
- ・地球生命史
- ・地球環境と生物の相互作用
- ・地殻内生物圏の化学環境と微生物生態系の多様性

E 地球電磁気学

- ・太陽圏・惑星間空間
- ・宇宙天気
- ・宇宙プラズマ理論・シミュレーション
- ・地磁気・古地磁気
- ・磁気圏 - 電離圏結合
- ・電気伝導度・地殻活動電磁気学
- ・電離圏・熱圏
- ・磁気圏構造とダイナミクス

- ・大気圏・熱圏下部および大気化学
- ・地震・地殻活動に伴う電磁気現象
- ・地球磁場研究の新展開:ダイナモ, 古地磁気, 岩石磁気

I 地球内部科学

- ・地球構成物質のレオロジーと物質移動
- ・地球深部ダイナミクス:プレート・マントル・核の相互作用
- ・地球深部スラブ

M 地球惑星圏学

- ・隕石・惑星間物質の磁場と太陽系形成過程
- ・惑星大気圏・電磁圏

T 地球惑星テクトニクス・ダイナミクス

- ・テクトニクス
- ・地下温度構造・熱過程
- ・フィリピン周辺の地震テクトニクス
- ・地震学と構造地質学における応力逆解析手法とその活用

G 地質学

- ・地域地質と構造発達史
- ・長期火成活動と火山発達史
- ・堆積物・堆積岩から読みとる地球表層環境情報
- ・放射性廃棄物処分と地球科学
- ・変形岩・変成岩とテクトニクス
- ・地球年代学・年代層序学
- ・実験で探る地形と地層のダイナミクス
- ・堆積物から紐解く自然災害
- ・ガスハイドレートとメタンプリュームはどこまで分かったか?

Y 防災・応用地球科学

- ・地質ハザード
- ・応用地質における環境問題への対応

P 惑星科学

- ・「はやぶさ」の成果と今後の小天体研究
- ・我々はディープインパクト探査から何を学んだか?
- ・カウントダウン月探査
- ・惑星科学
- ・宇宙惑星における固体物質の形成と進化
- ・火星の科学と将来探査

Z その他

- ・地形
- ・環境リモートセンシング
- ・GIS
- ・対流圏から熱圏までの大気電気現象

J ジョイント

- ・地球惑星システム科学
- ・海洋底地球科学
- ・巨大地震発生帯の科学
- ・西太平洋海域の発達過程
- ・映像でみる地球惑星科学
- ・キッチン地球科学
- ・火山活動や沈み込み過程に伴う低周波振動現象
- ・地球流体力学：地球惑星現象への分野横断的アプローチ
- ・情報地球惑星科学
- ・陸域の生物地球化学

- 断層帯のレオロジーと地震の発生過程
 - 地球惑星科学の教育とアウトリーチ(旧地学教育)
- インターナショナルセッション

§ 3 各種登録について(変更・取消他)

連合大会ではまず最初に『個人情報登録』によって、ID番号を取得していただいております。その後で～の登録を必要に応じて行って下さい。

- 個人情報登録
- 参加登録(事前申込)
- 予稿集原稿投稿(講演申込)
- オンラインクレジットカード支払登録(指定機関払登録)

§ 3.1 個人情報登録

連合大会への参加するための各種登録や、日本地球惑星科学連合からのお知らせを受取るためには、個人情報登録が必要です。

登録は無料ですので、大会ホームページの『個人情報登録』にてご登録下さい。

ご登録後は、以下が可能になります。

- 個人情報登録IDの発行
- ニュースレター(JGL)の送付(年4回)
- お知らせなどメールによる連絡
- 連合大会の参加手続きの簡略化

連合大会において、以下の場合は、個人情報登録によって発行される個人IDが全員必要です。

- 発表者・予稿の著者および共著者
- 参加者
- セッションコンピーナー(代表/共同)
- セッションの座長

** ただし、既に登録済みで、ID番号をお持ちの方は再度行う必要はありません。

** 転勤・卒業等で住所変更が生じた場合も、ホームページ上の「個人情報登録」にて、所属・住所変更を行って下さい。

** 今後、ニュースレターJGL、大会プログラム、予稿集CD-ROMなど送付は、送付物お届け先(〒番号、住所)と氏名になります。送付物お届け先住所は、住所のみでなく、具体的なお届け先機関名、建物名、部屋名など確実に受け取り可能な内容のご入力をお願いいたします。

<< 個人情報登録のために必要な情報 >>

- 氏名(漢字、カタカナ、英語) 姓と名別々に
- E-mail アドレス
- 所属学会(複数選択式)

- 所属機関名(漢字、カタカナ、英語)
- 所属機関名略称(漢字、英語)(表示用)
- 送付物お届け先(〒番号、住所) そのまま送付ラベル
- 昼間連絡がとれる連絡先電話番号
- 身分(学生、一般 選択式)

§ 3.2 参加登録(事前申込:4月10日12:00締切)

当日ご来場される方(発表者、座長、聴講・見学のみの方)は、「参加登録」が必要です。大会当日会場へご入場の際には、参加登録後郵送される名札をご着用していただきます。事前申込は当日申込(当日登録)より料金がお安くなっていますので、お勧めいたします。

ただし、会合のみに出られる方は参加登録の必要はありません。総合受付で会合用の名札を受け取り、ご着用をお願いします。

§ 3.3 予稿集原稿投稿(申込:2月8日12:00最終締切)

予稿集原稿投稿される方は、に加えてを行って下さい。共著者も『個人情報登録』のID番号が必要ですのでご注意ください。当日発表のみされる方は『参加登録』が必要です。

§ 3.4 オンラインクレジットカード支払登録

お支払いは、予稿集原稿投稿・事前参加登録と同時にオンラインシステムによるクレジットカード(VISA, MASTER, ダイナース, JCB, AMEX)でお願いしております。

§ 3.5 変更・キャンセルについて

予稿集原稿投稿

2006/2/8(水) 正午12:00まで	変更	各自HPより行って下さい
	取消	
上記以降	変更	料金の返金はできません
	取消	

事前参加登録

2006/4/10(月) 正午12:00まで	変更**	取消後、再登録して下さい 事務局までご連絡ください
	取消	
上記以降	変更	× 料金の返金はできません
	取消	

** 変更を希望される場合は事務局へご連絡をお願いします。参加登録の取消は、WEB上では出来ません。事務局での取消作業完了の通知がありましたら、再登録をお願い致します。連絡方法: Email 又は FAX
連絡先: Email:reg@jpgu.org

FAX : 03-5841-1364
(ご連絡時は個人情報ID 番号もお知らせ下さい。)

§ 4 大会運営委員会からのお知らせ

§ 4.1 大会当日の受付時間について
大会期間中の受付時間 場所は以下の通りに開設予定です。

総合受付・当日登録受付

5/14(日)～18(木) AM 8:00～PM 5:00
1F エントランス正面、デスクおよびカウンター

§ 4.2 会場での名札着用をお願い

健全な財政を維持するために、以下の事をお願い致します。

- (1) 事前お申込の方は、大会前に送付された名札を忘れずに会場へご持参下さい。
- (2) 当日お申込の方は、まず当日登録受付にお立ち寄りになり精算を済ませた上で名札を受け取って参加してください。
- (3) 名札を着用せずに会場に入られた方には理由をお伺いします。

§ 4.3 団体展示・書籍出版・関連商品販売展示

連合大会では、2F 中央ロビー及びホワイエにて、研究団体・企業・出版社などによる研究紹介・書籍・機器などの展示ブースを設けております。21世紀COEプログラム拠点大学の展示もごさいます。様々な形でご利用頂き、有効な情報交換の場としてご利用ください。ご利用希望の方は、事務局へご連絡下さい。詳細(申し込み要綱)をご案内します。なお、お申し込みは定員に達し次第締め切ります。スペースに限りがございますので、お早めにお申し込み下さい。詳細は、大会ホームページの「各種お知らせ」をご覧ください。

§ 4.4 連合大会会場における会合申込み

会合・集会を行う団体の部屋使用希望の申し込みは、プログラム日程決定後下記の通り、先着順で受付しますのでお早めにお申込下さい。会場内の部屋数に限りがございますので、満室になった場合はできる限り会場周辺の会議施設をご紹介させていただきますが、やむを得ずご希望に添えない場合があります。ご了承ください。

なお、部屋使用料金、お弁当等の詳細はホームページの「会のお申込み」をご覧ください。

お申し込み受付

2006/3/6(月)～4/21(金)

お申し込み先

2006年連合大会会合係

(E-mail: meet2006@jpgu.org)

お申し込み内容

- 1) 会合名称
- 2) 申込み責任者とそのメールアドレス
- 3) 利用人数
- 4) 希望する時間(開始・終了時刻)

なお、会合時のお弁当のお申込は、会合受付終了後、4/25(火)～4/28(金)幕張メッセお弁当受付担当へ直接ご発注下さい。

§ 4.5 保育希望の方へ

合同大会に引き続き、連合大会におきましても、保育をご希望されます方へ、会場に隣接する千葉市認定保育施設をご紹介します。保育室の利用につきましては日本地球惑星科学連合より金銭的補助をいたします。詳しくは大会ホームページ「各種お知らせ」にてご確認ください。

§ 4.6 日本地球惑星科学連合2006年大会運営組織

大会運営委員長 津田敏隆(京都大学生存圏研究所)

副委員長 高橋幸弘(東北大学)

事務局長 岩上直幹(東京大学)

プログラム委員会

委員長 北 和之(茨城大学)

副委員長 篠原 育(宇宙航空研究開発機構)

" 古村孝志(東京大学地震研究所)

情報局

局長 武井康子(東京大学地震研究所)

副局長 綿田辰吾(東京大学地震研究所)

" 中川茂樹(東京大学地震研究所)

大会運営委員会委員

石橋純一郎(九州大学), 岩森 光(東京大学), 大野希一(日本大学), 小野高幸(東北大学), 加藤泰浩(東京大学), 竹内 希(東京大学地震研究所), 田中 智(宇宙航空研究開発機構), 坪井誠司(海洋研究開発機構), 安原正也(産業技術総合研究所), 横川美和(大阪工業大学), 吉田尚弘(東京工業大学), 脇田浩二(産業技術総合研究所)

学会選出プログラム委員 正・副

2006pcom@jpgu.org

* 日本火山学会

大野希一(日本大学),

下司信夫(産業技術総合研究所)

* 日本岩石鋳物鋳床学会

角替敏昭(筑波大学),

榎並正樹(名古屋大学)

連合大会プログラム

- * 日本鉱物学会
小暮敏博(東京大学), 三河内岳(東京大学)
 - * 資源地質学会
加藤泰浩(東京大学),
関陽児(産業技術総合研究所)
 - * 日本地震学会
青木元(仙台管区气象台),
馬場俊孝(海洋研究開発機構)
 - * 日本水文科学学会
鈴木啓助(信州大学),
安原正也(産業技術総合研究所)
 - * 日本雪氷学会
西尾文彦(千葉大学)
 - * 日本測地学会
加藤照之(東京大学地震研究所),
大坪俊通(情報通信研究機構)
 - * 日本堆積学会
角和善隆(東京大学),
七山太(産業技術総合研究所)
 - * 日本第四紀学会
奥村晃史(広島大学)
 - * 日本地下水学会
嶋田純(熊本大学), 山中勤(筑波大学)
 - * 日本地球化学会
鈴木勝彦(海洋研究開発機構),
角皆潤(北海道大学),
下田玄(産業技術総合研究所)
 - * 地球電磁気・地球惑星圏学会
河野英昭(九州大学),
清水久芳(東京大学地震研究所)
 - * 日本地質学会
七山太(産業技術総合研究所),
片山肇(産業技術総合研究所)
 - * 日本惑星科学会
小高正嗣(北海道大学),
生駒大洋(東京工業大学)
- (以上学会五十音順敬称略)

日本地球惑星科学連合2006年大会プログラム

日本地球惑星科学連合2006年大会が下記のとおり開催されます。2006年大会には過去最大の2700件余りの発表が申し込まれ5日間の会期で開催されます。日本地球惑星科学連合が発足して満一年となりますが、地球惑星科学を学際的に盛り上げていく場として合同大会の意義は一層重要となります。みなさまの積極的な参加を期待しています。

期日：2006年5月14日(日)～5月18日(木)

場所：幕張メッセ国際会議場

大会詳細：<http://www.jpogu.org/meeting/index.htm>

確定プログラム公開：2006年4月3日(月)

各セッションの日程と会場は上記大会ウェブサイトで確認できます。

事前参加登録(割引料金)締切：2006年4月10日(月)正午

第四紀関連オーラルセッション(一部抜粋)

日	時間	セッション名	会議室
5月14日	9:00～15:15	S208：連動型巨大地震の発生様式と長期予測	201A
5月14日	13:45～15:15	T225：フィリピン周辺の地震テクトニクス	202
5月15日	9:00～15:15	S107：活断層と古地震	302
5月15日	9:00～12:15	Q127：沖積相研究の新展開	
5月15日	13:45～17:00	Q126：第四紀	301A
5月15日	9:00～12:15	W214：コア研究が拓く地球環境変動史	101A
5月17日	10:45～12:15	G227：堆積物から紐解く自然災害	202
5月18日	9:00～10:30	Z236：地形	101B
5月18日	13:45～17:00	L129：古気候・古海洋変動	201B

各セッションのポスター発表は口頭発表と同じ日か前後の日の10:00～～20:00で、コアタイムは18日を除き17:15～19:15です。

日本第四紀学会提案セッション

3月7日に提案したプログラムです。発表者は筆頭から3名までだけが記されています。確定したプログラムは3月下旬に発表者に通知され、4月3日以降大会ウェブページで確認できます。

セッション Q126 『第四紀』オーラルセッション

5月15日(月) 13:45 ~ 17:00 幕張メッセ国際会議場 301A

13:45 ~ 14:00 豊田和弘・郡司昌宣・藤井理恵

中央ヒマラヤにあった古カトマンズ湖の堆積環境の変遷に関する無機地球化学的研究

14:00 ~ 14:15 岩本直哉・井内美郎

Reconstruction in East Asian Monsoon variations from sediments of Lake Biwa

14:15 ~ 14:30 Lim Chungwan・豊田和弘・Chun Jong-Hwa

日本海コアから放射化分析により検出された複数の鬱陵島系起源のアルカリ岩質テフラ層

14:30 ~ 14:45 豊田和弘・篠塚良嗣・竹村恵二

琵琶湖と水月湖のコア中から放射化分析で検出した複数の鬱陵島テフラとその噴出年代

14:45 ~ 15:00 池原 実・村山雅史・多田井 修

四国沖海洋コア解析に基づく過去32万年間の九州起源テフラ層序

15:00 ~ 15:15 輿水達司・内山 高・八木公史

甲府盆地500mボーリングコアの地質

[休憩]

15:30 ~ 15:45 小林 淳・萬年一剛

箱根火山大涌谷テフラ群と周辺テクトニクスイベントとの同時性について

15:45 ~ 16:00 田村糸子・山崎晴雄・水野清秀

銚子地域犬吠層群の鮮新世広域テフラ：三松 - HSC, 谷口, Hap2 テフラの挟在層準

16:00 ~ 16:15 中里裕臣・中澤 努

江南台地における飯縄西山テフラの発見

16:15 ~ 16:30 吉田英嗣・須貝俊彦

24,000年前における浅間火山の大規模山体崩壊に起因する堆積地形と堆積物の特徴

16:30 ~ 16:45 山本博文・土田浩司

福井県経ヶ岳南西麓の岩屑なだれと断層活動

16:45 ~ 17:00 鈴木毅彦・中山俊雄

東北仙岩地熱地域を給源とする約2Maに噴出した大規模火砕流とそれに伴う広域テフラ

セッション Q126 『第四紀』ポスターセッション

5月15日(月) 10:00 ~ 20:00 幕張メッセ国際会議場

コアタイム 17:15 ~ 19:15

- 1 打越山詩子・長谷義隆 珪藻化石に基づく陸水域堆積場の古環境解析
- 2 村上拓馬・高松武次郎・山本綱志
バイカル湖集水域におけるウランの存在形態
- 3 島田愛子・高田将志・豊田 新
起源の異なる石英粒子の電子スピン共鳴信号特性 - 堆積物の供給起源推定に向けて -
- 4 奈良間千之・近藤玲介・塚本すみ子
OSL年代測定を用いたキルギス共和国テルスケイ・アラトー山脈の最終氷期の氷河編年
- 5 近藤玲介・塚本すみ子
宗谷丘陵における周氷河性岩屑堆積物のOSL年代と石英微粒子のOSL信号特性
- 6 幡谷竜太・柳田 誠・山本真哉 新潟県魚沼丘陵北部の河成段丘の層序
- 7 前川拓也・竹内 章 新潟県西頸城地域の活構造
- 8 角田絵理・芦田貴史・公文富士夫 池尻川低地のテフラの年代
- 9 森脇 広・永迫俊郎 トカラ列島における第四紀後期のテフラ編年

- 10 杉戸信彦・岡田篤正・粟田泰夫
長野盆地西縁断層帯の変動地形の形成過程：草間地区・小松原段ノ原地区の例
- 11 松島紘子・須貝俊彦・水野清秀
Average Slip Rate of Ayasegawa Fault since the Middle Pleistocene
- 12 松浦旅人・吉岡敏和 河成段丘面を指標にした飛騨山脈北西部の第四紀傾動速度
- 13 渡部 遼・岩本はるか・岩本直哉
琵琶湖湖底表層堆積物の物性と気象観測記録との相関
- 14 岩本はるか・渡部 遼・岩本直哉
琵琶湖表層堆積物の物理量変化と気象観測データとの対応
- 15 相澤育実・岩本直哉・渡部 遼 吸光光度法による Biogenic Silica 濃度の測定
- 16 芦田貴史・塩屋藤彦・井上卓彦
琵琶湖音波探査記録からみた過去約 3 万 5 千年間の湖水面変動史

セッション S107 『活断層と古地震』 オーラルセッション

5月15日(月) 9:00 ~ 15:15 幕張メッセ国際会議場 302

- 9:00 ~ 9:15 板井秀典・中川康一 新しい水銀探査法の開発と活断層への適応
- 9:15 ~ 9:30 島田耕史・丹羽正和・野原 壯
活断層露頭で得られた水素ガス濃度の未固結断層岩方位に対応する変化
- 9:30 ~ 9:45 今泉俊文・中田 高・堤 浩之
断層変位量と平均位速度分布のデータベース
- 9:45 ~ 10:00 松本 剛・中村 衛・新城竜一
南西諸島宮古・八重山地方に見られる「島弧胴切り型」活断層群
- 10:00 ~ 10:15 吉村辰朗
京都西山断層帯円明寺断層の破碎幅から算出される断層長と垂直変位
- 10:15 ~ 10:30 横倉隆伸・稲崎富士・山口和雄
反射法地震探査による京都盆地南部低地 - 丘陵境界周辺の断層・基盤構造
- [休憩]
- 10:45 ~ 11:00 奥野真行・鈴木康弘・渡辺満久
地域防災のための三重県活断層 マッピング計画
- 11:00 ~ 11:15 木村治夫・佐藤比呂志・石川尚人
古地磁気により得られた丹那断層周辺の横ずれ変形からみた真鶴マイクロプレートの北進
- 11:15 ~ 11:30 鈴木康弘・糸魚川 - 静岡構造線活断層帯重点的調査観測・変動地形グループ
糸魚川 - 静岡構造線の地震時断層挙動および強震動の予測精度向上に資する変動地形調査
- 11:30 ~ 11:45 竹内 章 富山トラフに大津波は起こるのか
- 11:45 ~ 12:00 渡辺満久 高田平野東縁断層の活動履歴
- 12:00 ~ 12:15 宮内崇裕・前李英明・宍倉正展 三陸海岸の完新世垂直変動と地震発生時期
- [休憩]
- 13:45 ~ 14:00 遠田晋次・吉岡敏和・小俣雅志
山形盆地断層帯における完新世地震イベント
- 14:00 ~ 14:15 水本匡起・今泉俊文・大槻憲四郎
東北地方における主要活断層の完新世活動時期とその比較
- 14:15 ~ 14:30 岩井雅夫
Holocene turbidite distribution in the western Nankai Trough off Muroto
- 14:30 ~ 14:45 郭 建明・林 愛明・丸山 正
New Constraints on Recent Earthquakes along the Xidatan-Dongdatan Segment of the Kunlun Fault
- 14:45 ~ 15:00 林 愛明・郭 建明
QuickBird 画像から推定される 2005 年パキスタン地震の地表地震断層
- 15:00 ~ 15:15 粟田泰夫・金田平太郎・中田 高
2005 年パキスタン地震 (M 7.6) に伴う地震断層の概要

セッション S107 『活断層と古地震』 ポスターセッション

5月15日(月) 10:00 ~ 20:00 幕張メッセ国際会議場 コアタイム 17:15 ~ 19:15

- 1 越後智雄・小田 晋・岡田真介
北海道北部の天塩断層帯周辺地域における第四紀後期の地殻短縮量と変位速度の試算
- 2 森下信人
Marine terraces correlation in Northern Hokkaido and activity of Teshio fault zone
- 3 添田雄二・七山 太・猪熊樹人
ガツカラ浜において発見された13層の巨大津波痕跡 - 根室海岸域における調査(速報1)
- 4 添田雄二・七山 太・重野聖之
フレシマ湿原において発見された14層の巨大津波痕跡 - 根室海岸域における調査(速報2)
- 5 添田雄二・七山 太・重野聖之
南部沼公開トレンチで明らかにされた巨大津波痕跡 - 根室海岸域における調査(速報3)
- 6 楮原京子・今泉俊文・越後智雄
横手盆地東縁断層帯の活構造
- 7 宍倉正展・澤井祐紀・岡村行信
石巻平野における浜堤列および津波堆積物調査
- 8 宮下由香里・田中竹延・市川清士
立川断層の最新活動
- 9 小林健太・宮下由香里・吾妻 崇
福岡県南西部, 警固断層とその周辺に分布する断層岩
- 10 吾妻 崇・宮下由香里・小林健太
警固断層の最新活動時期
- 11 岡村 眞・松岡裕美・島崎邦彦
博多湾における警固断層延長部の活動履歴
- 12 吾妻 崇・金 幸隆・丸山 正
六日町断層帯六日町地区における断層活動履歴
- 13 金 幸隆・吾妻 崇・丸山 正
六日町断層帯南部の古地震調査
- 14 吾妻 崇・廣内大助・岩崎悦夫
トレンチ掘削調査による高田平野断層帯の最新活動時期の検討
- 15 丸山 正・家村克敏・吉岡敏和
新潟県中越地震に伴い現れた地震断層の古地震調査
- 16 佐藤早苗・氏原英敏・豊島剛志
2004年新潟県中越地震による地下水の異常と水質、酸素同位体組成、活構造
- 17 氏原英敏・佐藤早苗・豊島剛志
2004年新潟県中越地震に伴う地下水温変化
- 18 小松原 琢・斎藤 勝・吉岡敏和
楡形山脈断層帯・加治川断層の活動履歴調査
- 19 松浦旅人・堀川晴央・竿本英貴
魚津断層帯周辺の地下地質と活構造
- 20 岡田真介・池田安隆・小田 晋
伊那谷断層帯の構造とその発達過程
- 21 石山達也・佐藤比呂志・戸田 茂
鈴鹿東縁断層におけるP波反射法地震探査: 西野尻測線
- 22 杉戸信彦・岡田篤正
長野盆地西縁断層帯の地震時地表変位の再現性
- 23 吉岡敏和・細矢卓志・橋本智雄
境峠断層および霧訪山断層における活動履歴調査
- 24 澤 祥・糸魚川 - 静岡構造線活断層帯重点的調査観測・変動地形グループ
糸魚川 - 静岡線活断層帯北部の変動地形調査および航測解析による平均変位速度解明とその意義
- 25 佐々木 寿・向山 栄
航空機レーザスキャナDEMを用いた変動地形の判読手法
- 26 川畑大作・石山達也
養老断層の変位地形のデジタル写真測量
- 27 福山英一・山田隆二・小村健太郎
跡津川断層露頭ボーリングによる断層構造調査
- 28 松田達生・小村健太郎・池田隆司
防災科学技術研究所による中部日本における陸上科学掘削
- 29 浅見真規
原発支持する電力中央研究所論文のウソ
- 30 池田倫治・小林修二・大野裕記
Characteristics of the Gotanda fault near the Yawatahama-City
- 31 松多信尚・陳 文山・楊 志成
Active fault system in central Taiwan
- 32 オンタンテイン・岡村行信・佐竹健治
ミャンマー西海岸における古地震
- 33 石黒聡士・杉村俊郎・佐野滋樹
アングマン諸島北西岸の地震性隆起 - 異種の衛星画像によるステレオ画像による計測
- 34 宮田隆夫・Aliyev Fegan・Gasnov Arif
Urban concealed-active-fault investigation in Baku (Azerbaijan) using a ground-penetrating radar

日本第四紀学会2006年創立50周年大会案内(第2報)発表申し込み

1. 日時・開催場所：2006年8月4日(金)～8日(火)，首都大学東京ほか
2. 発表の申し込み締め切り：2006年6月10日(土)
3. シンポジウム
創立50周年を記念して，8月4日(金)～6日(日)に4つのセッションからなる記念シンポジウムを行います。全て依頼講演になります。
4. 巡検の概要
8月7日(月)～8日(火)。1コースのみで，内容と巡検申し込みは次号で案内します。
5. 宿泊：本号にホテル一覧の案内を付します。

1. 日時・開催場所の概要

日程：2006年8月4日(金)～8月8日(火)

- 4日(金)午前：評議員会
午後：記念シンポジウム(セッション1)
- 5日(土)午前：記念シンポジウム(セッション2)，ポスターコアタイム
午後：総会，50周年記念式典
夕方：50周年記念パーティー
- 6日(日)終日：記念シンポジウム(セッション3,4)

一般研究発表のポスターは，4日の午後から6日の午後まで，掲示の予定です。

7日(月)～8日(火)巡検「南関東の第四紀主要露頭をめぐる」

記念シンポジウムは，1：最終氷期から完新世への急激な環境変動と人類，2：第四紀のあけぼの(ゲラシアンから前・中期更新世)，3：過去の間氷期の研究から今後の地球環境を探る，4：私たちのよりよい未来に向けて第四紀学は何ができるか，の4つのセッションを予定しています(いずれも仮題です)。

開催場所：

一般研究発表(ポスター)，50周年記念シンポジウム，総会，評議員会，50周年記念式典：首都大学東京南大沢キャンパス

50周年記念パーティー：京王プラザホテル多摩

(ポスター発表，シンポジウム等の会場の詳細は次報でお知らせします。)

*首都大学東京南大沢キャンパスへのアクセス方法は次のとおりです。12ページのアクセスマップまたは次のアドレス <http://www.metro-u.ac.jp/access.htm> も参照してください。

京王相模原線「南大沢駅」下車，徒歩5分

新宿から

京王線の特急(京王八王子行き)利用，「調布」で京王相模原線の急行橋本行きに乗り換え約30分。京王相模原線の快速橋本行き利用で約38分

渋谷から

京王井の頭線「明大前」経由，京王相模原線の急行橋本行き利用で約34分

吉祥寺から

京王井の頭線「明大前」経由，京王相模原線の急行橋本行き利用で約40分

東京から

JR中央線「新宿」経由，京王相模原線の急行橋本行き利用で約52分

八王子から

JR横浜線「橋本」経由，京王相模原線の快速新宿行き利用で約16分

町田から

JR横浜線「橋本」経由，京王相模原線の快速新宿行き利用で約18分

横浜から

JR横浜線「橋本」経由，京王相模原線の快速新宿行き利用で約51分

川崎から

JR南武線「稲田堤」経由，徒歩連絡(4分)「京王稲田堤」から京王相模原線の急行橋本行き利用で約51分(徒歩時間込み)

【注意】 待ち時間，乗換え時間は含みません。

連絡先：山崎晴雄(50周年記念事業実行委員会事務局長)

〒192-0397 東京都八王子市南大沢1-1
首都大学東京都市環境学部地理学教室

E-mail: yamazaki@comp.metro-u.ac.jp

Tel: 0426-77-2592 Fax: 0426-77-2589

2. 発表の申し込み

2-1. 一般研究発表の申し込み

今大会では，一般研究発表はポスターセッションのみとします。ポスターの掲示は4日午後から6日夕方まで可能です。5日の午前11時～12時をポスター発表のコアタイムとして設定しています。発表は，ポスターボードの関係から登壇者として1人1件のみとさせていただきます。一般研究発表を希望される方は13ページにある「発表申込用紙」(コピーでよい)に所定の事項を記入の上，「2-3 講演要旨の原稿の書き方」にしたがった写真製版可能な原稿及びそのコピー1部と共に6月10日(土)までに行事担当幹事までお送り下さい(必着厳守)。講演要旨原稿は2ページ分執筆してください。

原稿の行事担当幹事への到着をもって原稿の受付といたします。申込用紙の書式には、連絡先としてファックス番号と電子メールアドレスを是非ご記入下さい。メールアドレスは、読みやすいようにご記入下さい(印字したものを歓迎します)。また申込用紙の代わりにその記載内容を、電子メールで送っていただけると事務処理上、助かります。行事担当幹事まで同内容をお送り下さい。

要旨集原稿の送付先：

〒156-8550

東京都世田谷区桜上水3-25-40

日本大学文理学部地球システム科学科

日本第四紀学会行事担当幹事 遠藤邦彦あて

Tel & Fax: 03-3290-5451 (研究室)

E-mail: endo@chs.nihon-u.ac.jp

(原稿送付は郵便でお願いします。メール添付は受け付けていません。また送付先は実行委員会ではありません。お間違えのないようにご注意ください。)

2-2. シンポジウムの原稿提出

シンポジウムで発表される方は、「2-3. 講演要旨の原稿の書き方」にしたがった写真製版可能な原稿及びそのコピーに、「発表申込用紙」(コピーでよい)を添えて、6月10日(土)までに上記の行事担当幹事までお送り下さい(必着厳守)。原稿枚数は2ページでお願いします。今回は依頼講演者のみが対象となります。

2-3. 講演要旨の原稿の書き方

原稿用紙は、発表者各自が用意したA4版白紙を、横書き・縦置きで使用してください。左右各2.5cm、上端3.0cm、下端3.5cmは空白にしてください。表題・著者名は、(例)のように和文表題・著者名(所属)、英文著者名・表題の順に書いてください。和文表題は、1行目の左側を1.5cmあけて(左端から4.0cm)左詰めで書いてください。2行以上にわたる場合

でも1.5cmあけて左詰めで続けてください。和文著者名は、和文表題の後改行して、発表者を右端に右詰めで書いてください。2行以上にわたる場合でも1.5cmあけて右詰めにしてください。所属は和文著者名の後にカッコを入れて簡潔に書いてください。英文著者名・表題は和文著者名の後改行して、左詰め著者名・表題の順に「;」でつないで書いてください(所属は不要)。本文は英文表題の次の1行をあけて書き始めてください。行数・字数は自由ですが、36行・35字程度を目安としてください。不明な場合は昨年の要旨集を参考にしてください。本年も同一仕様です。ワープロ使用の場合は濃く印字してください。手書きの場合は黒色インクまたは黒色ボールペンを使用し、濃く細く書いてください。手書き図表の場合には黒インクを使用し原稿用紙に直接書くか、あるいは青色方眼紙・白紙・トレーシングペーパーなどに清書して枠内に貼ってください。図が原稿の上下端、左右端の空白部分にかからないようにご注意ください。印刷時にA4の原稿がB5版に縮小されますので、図の縮尺については「何分の1」という表現はしないで必ずスケールを入れてください。

3. シンポジウム

今回はシンポジウムに関連する口頭及びポスター発表の募集を行いません。シンポジウムの講演者、タイトル、スケジュールの詳細は次号をご覧ください。3日間で約30件の依頼講演を予定しています。

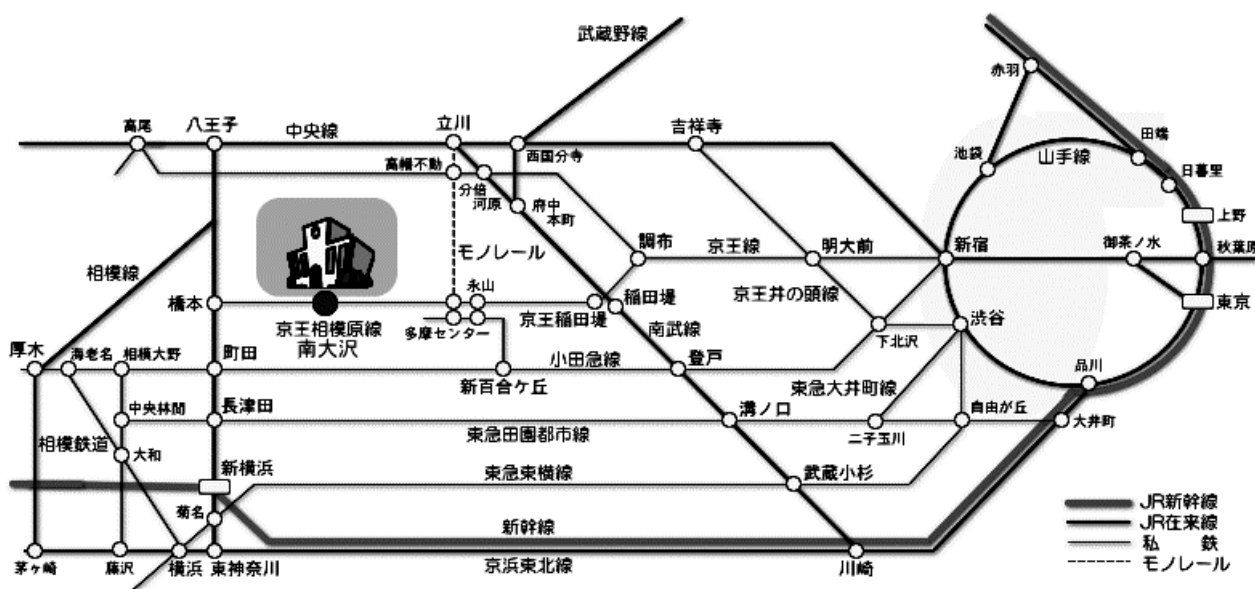
4. 巡検

「南関東の第四紀主要露頭をめぐる」を予定しています(案内者:町田 洋ほか)。巡検の詳細及び募集は、次号の第四紀通信に掲載します。

5. 宿泊

次ページにホテル一覧の案内をします。最寄り駅はアクセスマップ等を参照してください。

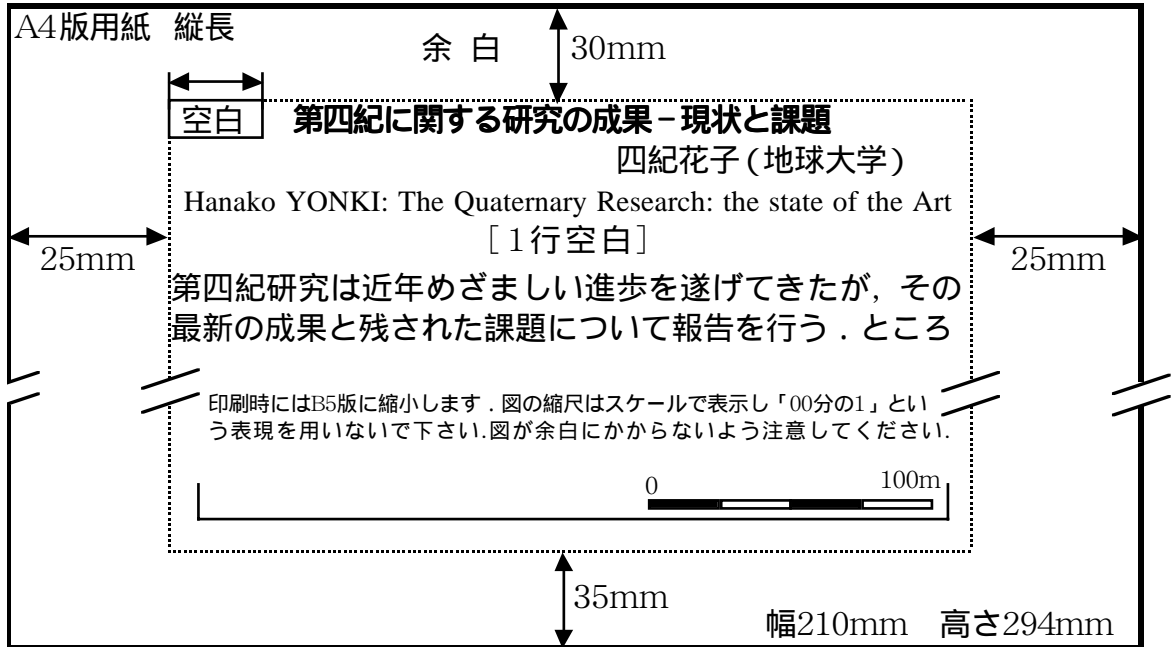
首都大学東京南大沢キャンパスへのアクセスマップ



首都大学東京南大沢キャンパス周辺のホテル一覧

最寄り駅	ホテル名	電話番号	ホームページ	料金(参考)
京王・小田急線多摩センター駅	ウェルサンピア多摩	042-376-8511	http://www.kjp.or.jp/hp_65/index.htm	7,900 ~
	京王プラザホテル多摩	042-374-0111	http://www.keioplaza.co.jp/tama/index.htm	10,500 ~
京王線調布駅	ホテル・ツインズ東京調布	0424-99-0330	http://www.hotel330.co.jp/hotels/2158/index.html	8,000 ~
	調布クレストンホテル	0424-89-5000	http://crestonhotel.co.jp/chofu/index.html	10,185 ~
JR, 京王線橋本駅	橋本パークホテル	042-774-6112	http://www.hashimoto-park.co.jp/	6,300 ~
	橋本シティホテル	042-774-8100	http://www.hashimotocityhotel.com/	6,630 ~
多摩都市モノレール高幡不動駅	シティホテル高幡	042-591-1121	http://www.ch-takahata.jp/	7,800 ~
JR 横浜線淵野辺駅	相模原第一ホテル	042-751-6551	http://www.sagamiharadaiichi-hotel.com/	6,510 ~
JR 横浜線古淵駅	相模原第一ホテル ANNEX	042-757-6551	http://www.sagamiharadaiichi-hotel-annex.com/	6,720 ~
JR 八王子駅	京王プラザホテル八王子	0426-56-3111	http://www.keioplaza.co.jp/hachioji/index.html	13,382 ~
	マロウドイン八王子	0426-23-7111	http://www.toto-motors.co.jp/marroad/hachioji/	6,900 ~
	八王子プラザホテル	0426-46-0111	http://www.hachioji-plaza.co.jp/index.htm	8,400 ~
	シーズイン八王子	0426-25-0051	http://www.csinn.co.jp/	6,825 ~
	サンホテル八王子	0426-44-4141		6,300 ~
	セントラルホテル八王子	0426-25-1311		6,000 ~
	八王子スカイホテル	0426-23-1100		6,300 ~
	三恵シティホテル八王子	0426-22-3388		6,090 ~

「講演要旨の書き方の例」と「発表申し込み書」の書式



発表申し込み書

氏名・所属				
講演題目				
キーワード (3~5個) <small>講演要旨には掲載しません</small>				
代表者の連絡先	〒			
	e-mail :		Tel :	Fax :
発表種別 (を付ける)	一般研究発表			シンポジウム
	口頭発表	ポスター	どちらでもよい	
スライド・OHP の使用 (を付ける)	スライド (8枚以内)	スライド+OHP (8枚以内)	OHP (8枚以内)	液晶プロ ジェクター

日本第四紀学会 50周年事業に関わる募金のお願い(再掲)

2006年3月1日

日本第四紀学会会員各位

日本第四紀学会 会長 町田 洋
50周年記念事業実行委員会 委員長 熊井久雄

日本第四紀学会 50周年事業に関わる募金のお願い

日本第四紀学会では2006年4月に創立50周年を迎えることから、50周年記念事業実行委員会を発足させて準備活動を進めているところです。この事業では、記念出版物の刊行、記念式典、記念シンポジウム、国際シンポジウム等の実施を計画しています。

財政的に非常に厳しい折、諸行事はできるだけ簡素に、そして受益者負担の原則で実施する所存ですが、国際シンポジウムにつきましては、日本の第四紀学を世界へ展開させるために、そして、アジア地域の第四紀研究との連携をはかるため、2007年8月にアジア各国の代表を招いて21世紀にふさわしい会合を開催の予定です。

このため国際シンポジウムを含めた50周年記念事業の実施に必要な資金を得るため、会員の皆様に下記の要領で募金をお願いする次第です。募金の趣旨と学会の厳しい財政状況をご拝察の上、日本第四紀学会発展のために是非ご協力賜りますようお願い申し上げます。

3月1日現在で約90名の会員のご寄付をいただいております。ご協力いただきました会員の皆様にはお礼申し上げますとともに、これを機会に未加入の大学院生や若手の方々にもご入会を勧めていただければ幸いです。

記

募金目標は500万円です。1口5,000円で募金口数に制限はありません。

募金は、郵便振替にて下記の口座にお振り込み下さいますようお願いいたします。(第四紀通信2月号に同封した募金専用の振り込み用紙をご利用いただくと送金料が無料になります。)

口座記号番号(募金専用) 00120-3-614754
加入者名 日本第四紀学会 50周年記念事業実行委員会

2口(10,000円)以上募金していただいた会員には、記念品(「第四紀研究」全巻をPDF化したCD:非売品、会員限定)を差し上げます。記念品CDは現在製作中ですが、7月15日までにお振り込みいただいた方には、8月4日~6日に開催の50周年記念大会(首都大学東京)会場で記念品をお渡しすることができます。

(問い合わせ先)

首都大学東京 都市環境学部地理学教室
山崎晴雄(50周年実行委 事務局長)
Tel: 0426-77-2592 Fax: 0426-77-2589
e-mail: yamazaki@comp.metro-u.ac.jp

日本第四紀学会第10回講習会のお知らせ(第2報)

「古地磁気学による第四紀堆積物の研究法」

このところの国際情勢では、第四紀の定義が変わりつつあり、その下限をグラシアンの下限すなわちガウス-松山クロン境界に置くという提案がなされています。これにより第四紀学にとって磁気層序がますます重要になってくると考えられます。また最近では気候変動や古環境の復元、地殻変動などの研究に、連続的に堆積した地層の残留磁化の方位と強度、初期磁化率などの変化を用いるといったことが行われています。今回、こうした古地磁気や磁気特性を用いた研究に関心を持っている人を対象として、その基礎知識と研究法を学ぶ講習会を下記のように企画しました。特に専門的な授業や講習を受けたことがない初心者向けに内容を設定してあります。参加希望の方は、企画担当幹事までご連絡下さい。

日時：2006年7月16日(日)午前9時～17日(月・祝日)午後5時頃

場所：茨城県つくば市及びその周辺

講師：山崎俊嗣(産業技術総合研究所)・植木岳雪(産業技術総合研究所)・林田 明(同志社大学) 敬称略

日程：

16日

<午前9時～午後6時>古地磁気の基礎知識，測定法，研究例などの講義

<夜>懇親会

(筑波研修センター <http://www.meikei.or.jp/~center/>)

17日

<午前8時～12時>岩石・未固結堆積物のサンプリングの実習(筑波山周辺)

<午後1時～5時>残留磁化と初期磁化率の測定実習，データ処理の演習など

(産業技術総合研究所つくば中央第7事業所 http://www.aist.go.jp/index_ja.html)

定員：15名程度(申し込み順に受け付けます)

参加費：2,000円程度。その他の費用として食事代・宿泊代・懇親会費(3,000円程度)。費用は当日徴収します。

宿泊：当日及び前後の宿泊希望者は、筑波研修センターにまとめて申し込みますので、ご連絡下さい(1泊3,600円)。なお16日は近辺居住者を除き、全員宿泊を基本とします。

申し込み方法：下記企画担当幹事あて、氏名、住所、所属先、連絡先の電話番号、E-mailアドレス、講義・実習に関する要望、宿泊希望等を書いた申込書をE-mailまたは郵便でお送り下さい。講習会の詳細を折り返しご連絡いたします。

申し込み・連絡先：

〒305-8567 つくば市東1-1-1 中央第7事業所 産業技術総合研究所地質情報研究部門
水野清秀(日本第四紀学会企画担当幹事)

ネオテクトニクス研究委員会野外集会

「糸魚川 - 静岡構造線活断層系周辺のネオテクトニクス」のご案内

糸魚川 - 静岡構造線活断層系を対象として、現在、国の重点的調査観測が行われています。この断層系について現在までに分かってきたことを現地での地形地質観察を通じて確認していくとともに、この地域全体のテクトニクスについて理解を深めたいと思います。集会の詳細につきましては、下記のウェブサイトを通じて、今後、ご案内させて頂く予定です。

日程(予定): 2006年6月3日(土) ~ 4日(日) < 1泊2日 >

巡検コース: 松本周辺以北における糸魚川 - 静岡構造線活断層系、大峯丘陵の地形地質など

予定参加者数: 20 ~ 30名

申込連絡先: (独)産業技術総合研究所活断層研究センター 吾妻 崇

e-mail: t-azuma@aist.go.jp fax: 029-861-3807

ウェブサイト: http://staff.aist.go.jp/t-azuma/QR_neotec2006WS.html

第5回 地質学教養セミナー

「人類の活動域の生い立ちと現状」 - 地球環境史の観点から -

主催: 断層研究資料センター

後援: 日本応用地質学会関西支部 関西地質調査業協会 その他

開催日: 平成18年6月29日(木) 13:00 ~ 17:00

会場: 大阪市立大学文化交流センター TEL: 06-6344-5425

大阪駅前第2ビル6F (JR大阪駅前)

(くわしくは大阪市立大学のHPをご覧ください)

参加費: 3,000円(資料代含む)

定員: 100名

申し込み: 事前申し込み不要。参加費は当日会場でお支払い下さい。

プログラム

1. アジアの巨大三角州: 生い立ちから発達, そして近年の変容まで
斎藤文紀((独)産業技術総合研究所 地質情報研究部門沿岸都市地質研究グループ
グループ長)
2. 縄文海進とは何か: 南の海と島々の海面上昇の記録を追って
前田保夫(兵庫県立大学 客員教授)

なお、当センターのセミナーは技術士CPD(継続教育)に履修実績として申請をすることができます。

連絡先: 断層研究資料センター

電話・FAX 06-6532-6218

E-mail: fred_c@orange.livedoor.com

諏訪湖に出現した「御神渡り」2006年

公文富士夫（信州大・理）

厳冬を反映して、今年は立派な「御神渡り」が出現したので、時期を逸したが、簡単に紹介する。御神渡りは全面結氷した後に、氷の割れ目が線状に盛り上がったものである。諏訪湖においては、諏訪大社上社の男神が下社の女神へ通った道筋とされ、その線の方向によって豊凶を占う神事（拝観式）が行われてきた。その拝観の記録は、1443年以来のものがあり（一部に欠落）、歴史記録に残された記録としては最古のものであることがよく知られている。

今年は12月下旬から全面結氷となり、八剣

神社によって1月9日に「御神渡り」の出現が確認され、13日に拝観式が行われた。近年では1985、1991、1998、2003年に御神渡りが出現しているが、1985年以来の立派な御神渡りだそうである。

本通信に今年の御神渡り（一之渡りと佐久之渡り；表紙写真）の2枚の写真を載せておく。教材などにご自由にお使いください。もっと解像度のよいものが必要な方は公文までご連絡ください。



諏訪市豊田側にできた北西方向の御神渡り（一之渡り）
（2006年1月13日 公文富士夫撮影）

訃報

古気候学と古海洋学の発展に多大な貢献をされた、前INQUA会長のNicholas J. Shackleton卿が1月24日に白血病のためお亡くなりになりました。享年68歳でした。昨年10月には旭硝子財団からブループラネット賞を受賞され、日本第四紀学会の会長及び前会長を始めとして十数人の研究者から祝福を受けた時にはお元気でしたが、帰国されてから3ヶ月の間に急速に病状が悪化してしまいました。日本第四紀学会から心からの哀悼の意を表す弔文が送られました。ご冥福をお祈り申し上げます。

大場忠道

日本第四紀学会主催シンポジウム

「大都市圏の地盤 - 私たちの生活とのかかわり - 」の報告

2006年1月29日(日)(13時 - 17時30分)に明治大学アカデミーコモンを会場として、標記シンポジウムが開催された。このシンポジウムは、一般の方々にも、生活とのかかわりの中で平野部の地形・地質に強い関心を持ってもらえることを目標とし、学際的な内容として企画された。下記にそのプログラムを示す。

司会 水野清秀

1. シンポジウム主旨説明：木村克己・水野清秀・奥村晃史
2. 新潟平野の沖積層の堆積システム：卜部厚志
3. 東京の丘陵・台地の生い立ち：鈴木毅彦
4. 利根川・荒川低地の地形と河道変遷：久保純子
5. 東京低地北部における沖積層の三次元堆積モデル：田辺 晋・石原与四郎・江藤稚佳子・中西利典・木村克己・中山俊雄・八戸昭一
6. 沖積地盤の工学的特性 - 特にS波速度値との関係 - ：稲崎富士
7. 地下水からみた関東平野の地下環境：林武司・安原正也



主旨説明をする木村克己会員



シンポジウム会場風景

講演内容は、シンポジウム開催地でもある首都圏とその周辺の平野の地形・地質に焦点を当てたものとなり、地形・地質の生い立ち・成り立ちについて、標記のうち講演3・4・5で、そして、こうした地質との関係で地質災害や生活環境との橋渡しとなる土質工学的な特性について講演6で、広域的な地下水流動系や水質と地質構造・堆積環境との関連について講演7で、それぞれ最新の研究成果を交えながら紹介がなされた。また、関東平野以外での典型的な平野地質研究の事例として、講演2で新潟平野の沖積層の話をしていただいた。講演後の質疑や総合討論も、参加者の方々の熱心な討議への参加のおかげで、盛り上がり、総合討論も時間が足りなくて切り上げざるを得なかった。ただ、その雰囲気は懇親会に持ち込まれ、シンポ世話人・講演者を囲み、熱のこもった議論がなされた。参加者は会員62名、非会員45名、計107名であった。最後に講演者の皆様、さらに会場の便宜をはかっていただいた杉原重夫先生にあらためて感謝申し上げる。

(シンポジウム世話人 木村・水野・奥村)

2005年度第2回評議員会議事録

日時：2006年1月29日(日)10:00～12:00
 場所：明治大学駿河台キャンパスアカデミーコモン9階309B教室
 議長：三田村宗樹
 出席者：町田 洋(会長), 真野勝友(副会長), 池原 研, 犬塚則久, 井内美郎, 上杉 陽, 大場忠道, 岡崎浩子, 奥村晃史, 久保純子(記録), 熊井久雄, 小泉武栄, 斎藤文紀, 鈴木毅彦, 辻 誠一郎, 土隆一, 陶野郁雄, 中村俊夫, 長友恒人, 兵頭政幸, 松浦秀治, 水野清秀, 渡邊眞紀子

遠藤行事幹事の司会で町田会長挨拶に続き, 三田村宗樹評議員が議長に選出され, 定足数確認の後, 以下の報告と審議がおこなわれた。

[報告事項]

1. 2005年度事業中間報告

1-1 庶務(久保幹事)

(1) 会員動向(2005年12月31日現在)

正会員1660名(うち, 学生会員55名, 海外会員19名を含む), 名誉会員4名, 賛助会員12社, 団体購読会員94団体(契約期間終了まで), 総計1770。(2005年1月31日現在正会員1689名, 名誉会員4名, 賛助会員13社, 団体購読会員97団体)。

(2) 2005年度第1回評議員会を2005年8月26日に島根大学において開催した。出席者22名, 議長: 吉川周作。2005年度総会を2005年8月27日に島根大学において開催した。議長: 陶野郁雄。これらの詳細は, 議事録として第四紀通信12巻5号に掲載した。

(3) 幹事会の役割分担の決定

(4) 引用許可の受付, 会員名簿整理, 寄贈図書の手付を行なった。

(5) 学会・シンポジウム・講演会等の共催, 後援: 那須孝悌追悼シンポジウム(後援)2005年9月3日大阪市立自然史博物館。

(6) 2006年日本第四紀学会論文賞に向けて, 論文賞選考委員の選挙を行なった。町田会長から推薦された11名の候補者に対して, 評議員による選挙を行なった結果, 以下の5名が候補者として選出された: 平川一臣, 百原 新, 河村善也, 松島義章, 公文富士夫, (次点) 福岡孝昭。また, 会員に向け候補者の推薦を依頼する。

(7) 日本学術振興会へ科研費審査委員候補者情報提供にあたり, 評議員へ地質学, 地理学, 考古・人類・土壌, 古生物・動・植物, その他(地物・地化・工学)各分野について推薦(投票)を依頼した。

(8) 団体購読会員制度廃止に伴い, 雑誌の購読手続きを(株)丸善に引き継いだ。各団体との契約期間満了までは事務局が対応する。

(9) 会費長期滞納者に請求をおこなった。

(10) 2006年7月に鹿児島市にて開催される第41回地盤工学研究発表会「技術者交流特別セッション」に日本第四紀学会として「沖積層」のセッションを提案し, 採択された。7月13日に開催の予定である。

1-2 編集(池原幹事)

(1) 第四紀研究第44巻5号(原著論文2編, 講座1編と新投稿規定・執筆要項, 48頁), 6号(原著論文4編, 書評3編, 66頁+総目次)を刊行した。第45巻1号は原著論文3編, 短報1編, 書評1編で編集済, 2月1日刊行予定。

(2) 2005年8月の島根大会シンポジウム特集号編集委員会の設置が承認された。委員は, 瀬戸浩二・山田和芳・高田裕行(以上島根大学)・坂井三郎(海洋研究開発機構)・池原 研・岡崎浩子(編集幹事)・綿引裕子(編集書記)である。45巻3号(2006年6月刊行)を特集号にあてる予定で編集を進めている。現時点で投稿予定論文は10編。

(3) 2005年2月の千葉県立中央博物館でのシンポジウムの講演内容を中心に特集を計画した。口絵を含めて10編の論文(原著5編, 短報1編, 総説1編, 資料2編, 口絵1編)が投稿されている。

(4) 各種シンポジウム, ワークショップなどで「第四紀研究」にふさわしいと考えられる内容のものには, 「第四紀研究」に特集を組むことを主催者に提案してきた。いくつかについては, 具体的な動きが始まっている。

(5) 44巻4, 5, 6号で印刷ミスがあった。すなわち, 4号では口絵の挿入場所(本来目次の前に来るべき口絵を目次の後に入れた), 5号では奥付の会誌の価格表記(税込2100円を税込2000円と表記), 6号では原著論文の図の不鮮明な印刷があった。5号の奥付の価格表記の訂正は6号の巻末ならびにニュースレターに掲載し, 6号の図の差し替えは45巻1号に掲載の予定である。

(6) 新投稿規定3-5で定めた著作権等委譲承諾書は, 承諾書文案を検討中のため, 準備ができたい1月1日にさかのぼって提出を依頼したい。

1-3 行事(水野幹事)

(1) 日本第四紀学会2005年大会を島根大学において2005年8月26日～29日に開催した。8月26日～27日に一般研究発表を行い, 口頭36件, ポスター33件, 合計69件の研究発表が行われた。また26日夕方に評議員会, 27日に総会を行った。8月28日午前には, 「汽水域における完新世の古環境変動 - 自然環境の変遷と人為改編による環境変化 -」のシンポジウムを島根大学汽水域研究センターと共催で開催し, 11件の発表が行われた。また, 28日の午後には, 同じく島根大学において, 普及講演会「人は自然環境にどのように向き合うのか - 過去から現在, 未来まで -」を行った。大会の参加者は, 172名(会員125名, 非会員47名。企業展示業者など10名を除く), シンポジウムが, 約85名(内会員は約50名), 普及講演会は約100名であった。また, 8月29日に中村唯史会員の案内で巡検「三瓶火山と三瓶小豆原埋没林」を実施し, 13名が参加した。

(2) 日本第四紀学会2006年大会の内容について, 50周年記念事業実行委員会と共に検討を進めている。開催時期は2006年8月4日～6日, 会場は首都大学東京を予定。また50周年にふさわしい4つのセッションからなるシンポジウムと50周年記念式典・記念講演を計画している。一般研究発表については, ポ

スター発表のみとし、口頭発表は行わない予定である。また巡検は8月7日または7日～8日を予定しており、現在そのコース設定や案内者等を会員から広く公募している。普及講演については、大会期間外に行うことを含めて検討中である。

1-4 広報（兵頭幹事）

(1)「第四紀通信」Vol.12 No.5(2005年10月)とVol.12 No.6(2005年12月)を刊行した。Vol.13 No.1(2005年2月発送予定)の編集、印刷を行った。

(2)学術情報センターのインターネットWWWサーバ上の日本第四紀学会ホームページを通じて広報活動を行った。

(3)「第四紀通信」のVol.12 No.5, No.6を、それぞれ発行前月の中旬に日本第四紀学会ホームページに掲載した。

(4)第四紀学会会員メーリングリストを通じて、シンポジウム、研究集会、公募等の広報活動を行った。

1-5 渉外（奥村幹事）

(1) 日本地球惑星科学連合

2005年10月18日、東京大学理学部で第2回評議会が開催され、新規加盟学会の承認、運営体制整備、活動報告等について審議が行われた。また、第20期学術会議に設置された地球惑星科学委員会委員から連携会員の選出と国際対応の方針について説明があり質疑応答が行われた。

2005年10月28日、東京大学地震研究所で第1回国際委員会が開催され、設立の経緯と規約についての報告の後、日本学術会議との連携について議論が行われた。この議論を受けて、日本第四紀学会の国際第四紀学連合への対応の現状と役員・コンタクトパーソンの情報を国際委員会に提供した。

(2) 2006年地球惑星科学連合大会

第四紀学会が提案するレギュラーセッション「第四紀」と、地震学会・地質学会と共同提案のレギュラーセッション「古地震と活断層」が引き続き開催され、共に第四紀学会を中心に運営される予定である。会期：2006年5月14日（日）～18日（木）、会場：幕張メッセ国際会議場。各種オンライン手続きの日程：1. 予稿集原稿 受付開始1月10日、早期締切2月1日、最終締切2月8日。2. 大会参加登録 受付開始1月10日、締切4月10日。上記受付登録は、すべて合同大会公式web site(<http://www.jpгу.org/meeting/index.htm>)で行う。

(3) 自然史学会連合

2005年12月10日に国立科学博物館で2005年度総会が開催された。講演会の開催、ホームページの維持管理等についての報告に続いて、2004年度決算、2005年度会計経過報告、2006年度予算案等について審議承認された。次期代表は西田治文氏（植物分類学会）。総会后、討論会「自然史学会連合の意義とその未来」が開催された。

1-6 企画（水野幹事）

(1) 2006年1月29日明治大学アカデミーコモンで開催するシンポジウム「大都市圏の地盤 - 私たちの生活とのかかわり - 」を準備した。世話人は木村

克己・水野清秀・奥村晃史で、大都市が成立する沖積平野とその周辺の地形・地質の形成過程、地盤工学的な特性、地下水流動や水質、断層と火山などの最新の研究成果を紹介する6件の講演が行われる。

(2) 日本第四紀学会講習会として「古地磁気による第四紀堆積物の研究法」を2006年6月～7月の間に行う予定で準備を進めている。

2. 2005年度会計中間報告

鈴木幹事より、別紙1（省略）にもとづき、予定どおり予算執行中であるとの中間報告がおこなわれた。

3. その他

3-1 50周年記念事業実行委員会報告

山崎晴雄実行委員会事務局長による以下の報告を久保幹事が代読した。

夏の大会以降4回の実行委員会を開催し、50周年記念事業の具体的な実施に向けて以下の諸項目を計画・検討・実施した。

(1) 国内シンポジウム及び記念式典

2006年大会は日本第四紀学会創立50周年を記念して日本の第四紀研究を総括し将来を展望する記念シンポジウム（招待講演のみ）を実施する。このため、一般研究発表は口頭発表を行わずポスターセッションのみとする。シンポジウムの内容についてはいくつかのテーマ別にセッションを作りオーガナイザーを置いて、発表者及び発表内容の選定を実施中である。

2006年大会は8月4～6日（巡検の日程は含まない）に東京都八王子市南大沢の首都大学東京で実施する。大会では8月5日午後に総会と記念式典を行い、日本第四紀学会会長の記念講演が行われる。懇親会は創立五十周年記念懇親会として同日夜に実施する。懇親会の会場は未定。

(2) 国際シンポジウム

日本の第四紀研究を世界へ展開させるために、そして、アジア地域の第四紀研究との連携をはかるため、2007年夏にアジア各国の代表を招いて21世紀にふさわしい会合を開催する。シンポジウムのタイトルは「アジア・太平洋の第四紀 - 環境変化と人類 - 」で、独立行政法人産業技術総合研究所との共催とし、2007年8月20～22日に茨城県つくば市の産総研共用講堂で開催する。このシンポジウムにはアジアの国々およびINQUAからの代表者及び講演者を招待することを計画している。

(3) 募金事業

50周年記念事業は受益者負担を原則とするが、国際シンポジウムではアジアの各国などから代表者や講演者を招待するため、その旅費及び滞在費を負担する必要がある。このため、日本第四紀学会会員に広く呼びかけて募金を実施することとした。募金の実施は2005年総会で承認され、募金用の郵便振替口座（00120-3-614754 加入者名：日本第四紀学会50周年記念事業実行委員会）の開設を行った。第四紀通信2006年13巻1号に1口5000円からの募金の呼びかけを掲載し、振替用紙も同封する予定である。募金に関する事務は50周年事業実行委事務局

長の山崎晴雄（所在地：〒192-0397八王子市南大沢1-1 首都大学東京 都市環境学部地理学教室内）が担当する。

また、募金の促進を図るため1万円以上(5000円2口以上)寄付された方には、第四紀研究創刊以来の論文をPDF化して全て取り込んだCDを贈呈する予定である。CDの作成について外部委託の予定だが、現在見積を取り費用等を検討中である。

(4)出版関係

50周年記念事業として2種類の出版物を刊行する。

「地球史の現代と近未来 - 自然と人類の共存のために -」(東京大学出版会)2004年11月に第四紀研連が実施したシンポジウムをまとめたもので、現在世話人(町田 洋・岩田修二・小野 昭)が編集集中である。

CD出版物:第四紀学の研究成果を一般へ(とくに教育現場に)広く普及を図るため美しく見やすい写真・図・テキストからなるCD出版物を刊行する。現在、原稿を編集集中である。出版は第四紀学会が行い、バックナンバー等と同じく春恒社を経由して販売する予定である。

(5)博物館連携

博物館展示との連携については、現在、豊橋市立博、兵庫県立博、産総研地質標本館からの第四紀学会50周年記念展示の内諾が得られ、展示実施に向けて博物館連携特別委員会と内容等に関する検討を行っている。いずれの展示でも第四紀学会の特質を説明するパネル等を掲示する予定である。

博物館連携特別委員会の松島義章委員長にも50周年実行委員会委員として参加していただき、博物館ネットワークを通じて記念行事に関しても地域博物館との連携を深めることにした。

3-2 日本学術会議報告

(1)第19期(2005.2月~2005.9.30)

岩田修二元第四紀学専門委員会委員長による以下の活動報告が町田会長より説明された。

1)「19期の総括と今後の展望」の文書の検討・推敲と新会員への送付

7月29日に開いた第7回第四紀学専門委員会での議論をもとに「これまでの活動の総括と今後の第四紀研究の構想」を作成し、それをもとに地質学総合研究連絡委員会町田委員長に研連の文書として改訂していただき「地質学総合研究連絡委員会 第19期の活動総括と第20期への申し送り・要望事項」としてまとめた(本項末の資料参照)。これらは、9月12日に日本学術会議事務局を通じて第四部部長へ提出された。さらに日本学術会議新会員の入倉孝次郎、河野 長、平 朝彦、永原裕子、岡部篤行、碓井照子の各氏に送付した。

2)平成19年度科研費「時限付き分科細目の設定」への提案書「近未来予測のための古環境学」の提出
多田委員から古環境学に関する細目の設定に関する提案があったので「近未来予測のための古環境学」という細目の提案書を作成し、地質学総合研究連絡委員会町田委員長名で学術会議事務局を通じて学術体制常置委員会委員長に提出した。その結果は、9月下旬の第四部委員会で審議されたが、地球科

学分野でほかにも二つの提案があり、結局、「近未来予測のための古環境学」は優先順位が3位で採択されなかった。

3)ICSUの正式メンバーへINQUAを推薦する文書の作成

INQUAがICSUの正式メンバーになるために必要な推薦文の提出依頼がINQUAから日本学術会議にあったので、その推薦文(英文)を作成し事務局に提出した。その後の情報によれば、INQUAはICSUの正式メンバーになったとのことである。

4)国際対応の新体制への移行に関するアンケート(対応委員の情報)への回答

新体制の日本学術会議に国際対応委員会が設置されるのに際してINQUA対応委員の情報を提供するように求められたので、専門委員会の奥村委員が対応委員であると回答した。その後の情報では奥村委員は国際対応委員会の委員に任命されたとのことである。

以上をもって、19期第四紀学専門委員会の活動は、任期末の9月30日ですべて終了した。

(資料)

「地質学総合研究連絡委員会 第19期の活動総括と第20期への申し送り・要望事項」

・第19期における第四紀学専門委員会の活動

19期第四紀学専門委員会委員11名の推薦母体と人数は次のようである。会員1、日本第四紀学会3、日本地質学会、日本古生物学会、日本地理学会、応用地質学会、地球団体研究会、日本文化財科学会、会員推薦各1。この構成からも明らかなように、本委員会は、自然科学のみでなく、人文科学に及ぶ諸分野の連携をはかるという性格をもつ。19期に委員会は7回開催された。

今期に本委員会は、INQUAの国内委員会として、国際会議への代表(評議員)選出、役員と名誉会員の推薦のほか、当該分野に関して学会間の情報交換・報告・提言書の作成、シンポジウムの企画などを行ってきた。また広く関連学協会と連絡しつつ、新たな地球惑星科学連合や地質学総合研究連絡協議会、国際地球惑星年計画へ参加・支援し、連携を諮っている。

本研連は多数の公開シンポジウムを企画、主催・共催してきたが、今期には、とくに第四紀学の重要性と意義について社会と対話するために、「私たちの明日を考える:地球史が語る近未来の環境」というタイトルの公開シンポジウムを2004年11月28日に明治大学で主催した。内容は、グローバルな問題提起からはじめて、世界の中の日本を考えるという視点と、自然に対する人類の影響も含めた古環境の精緻な研究によって、近未来を予測すること(自然の変化、その人間への影響など)を試み、現在の人間活動のあり方を見直すべきことを強調した。本シンポジウムの内容は近日中に一般向けの単行本として出版される。

・第20期会員への第四紀学専門委員会からの要望
第四紀研究は、現在の自然と人の有り様を理解する上に基礎になる知見をもたらすとともに、技術のみで自然の克服をはかることなく、人類が環境変動

と共生できる環境の創造を目指す上で、一層推進させることが望まれる。第四紀学専門委員会が目標としていた諸課題はi)グローバルな環境変遷史の取り組み, ii) まだ十分ではないアジア諸国との連携, iii) 国内・国外を含めた第四紀学を学び研究する人材の育成, iv) 自然との共生・再生への提言, v) 「社会のための地球科学」の発展などである。20期においても、ぜひこれらの発展を諮って頂きたい。

本委員会は国際第四紀学連合 (INQUA) を構成する重要メンバー国の一つとして、その役割を果たすべく活動し、同時にINQUAの成果を国内での研究・教育に反映させてきた。こうした活動は20期の日本学術会議においても継続し、さらに発展させて頂きたい。

新しい学術会議の体制では、国際委員会の中に国際学術団体分科会(総称)が設けられることになっている。その中では、分野別委員会の地球惑星科学委員会の分科会として第四紀学分科会、またはINQUA分科会が設置されることを望む。

第四紀学の特色の一つは、前述のようにきわめて多元的で学際的な科学である点である。このため従来から理学としての地球科学のみでなく、人類学・考古学・社会学などの分野からの研究者とともに活動して来た。今後も、これに関連する分科会は、分野横断的な構成を配慮されて、現代の地球環境問題の研究の発展をになって頂きたい。

従来の第四紀学は、必ずしも一般社会との対話が十分であるとは限らないし、十分理解が得られているとはいえない。このため、専門委員会では上記のように公開講演会をしばしば開催して来た。とくに若年層への浸透が課題である。今後もこの課題に向けて地道な活動を続けられるように配慮して頂きたい。

(2)第20期(2005.10.1～)

奥村渉外担当幹事が日本地球惑星科学連合評議会および国際委員会での報告にもとづき、以下の情報を紹介した。

2005年10月1日に新体制による第20期日本学術会議が発足した。従来の4部制と研究連絡委員会は廃止されて、人文科学、生命科学、理学及び工学の3部制となり、第3部の会員を中心に組織された地球惑星科学分野別委員会が第四紀学を含む地球惑星科学全体を担当する。20期会員は全体で210名。この会員が約210名の連携会員を1年程度の期間をかけて選出し、新学術会議の組織が完成する。連携会員は現在選考中で、2005年度中に500名程度が任命される予定である。

地球惑星科学委員会のメンバーは河野 長(地球電磁気学)、入倉孝次郎(地震学)、平 朝彦(地質学)、岡部篤行(地理情報学)、永原裕子(岩石鉱物学)、碓井照子(人文地理学)の6名で、碓井照子氏が国際第四紀学連合対応の会員となった。この委員会は直接個別の学協会とは対応せず、地球惑星科学連合を窓口として対応する。その一方で、地球惑星科学の主要な分野ごとに、連携会員と会員からなる4つの分科会(固体地球、流体地球、惑星地球史、生物人類環境)を設置し、個別的な案件を審議する。

日本学術会議の国際対応を継続的かつ円滑に行うために、従来日本学術会議が対応していた47団体については従来国際団体との対応にあたった日本学術会議会員・研連委員を臨時の連携会員として任命する。この発令は12月5日行われ、国際第四紀学連合対応の連携会員には第四紀学会の情報提供に基づき、2003年国際第四紀学連合に代表を担当した奥村晃史が2006年3月末までの任期で任命された。

[審議事項]

1. 幹事会役割分担の承認

新幹事会の役割分担が以下の通り承認された。

幹事長：斎藤文紀、庶務幹事：久保純子、会計幹事：鈴木毅彦、編集幹事：池原 研・岡崎浩子、行事幹事：遠藤邦彦・水野清秀、広報幹事：兵頭政幸、渉外幹事：奥村晃史、企画幹事：水野清秀・奥村晃史

2. 論文賞選考委員の承認

平川一臣、百原 新、河村善也、松島義章、公文富士夫、(次点)福岡孝昭の各会員が論文賞選考委員として選出されたことが承認された。

3. 編集委員の追加承認

西田泰民、渡邊眞紀子両会員が編集委員として追加承認された。

4. 科学研究費審査委員の情報提供の件

評議員による投票の得票上位者について、すでに登録済みの者および登録を承諾しない者を除き、学振へ情報提供を行うことが承認された。

5. 50周年記念事業について

募金活動、募金の記念品(第四紀研究バックナンバーCD)、記念電子出版などについて質疑・意見聴取があった。また、50周年記念として功労者の表彰についても計画されていることが紹介された。

6. 学会賞等に関する規定改定の件

幹事会より、50周年を契機とし第四紀学のいっそうの発展をはかるために、従来の学会賞(現行は論文賞のみ)を拡充し、50周年記念大会において表彰をおこなうことと、これにあわせて学会賞に関する規定・内規の改定をおこなうことが提案された。

これに対し、評議員から現行の論文賞設置の経緯が紹介され、十分な審議が必要であることが議論された。また、8月の50周年記念大会までに規定改定と選考をおこなうにはスケジュール上間に合わないとの意見が出された。

以上の議論にもとづき、50周年を記念して学会賞に新たな賞を設けるため、規定の改定案を8月の評議員会に提案する、との再提案が幹事会よりなされ、承認された。

7. 知的財産権などに関する検討委員会設置の件

幹事会より、知的財産権に関し、学会としての考え方を整理し具体的に対応するための検討委員会の設置が提案され、承認された。人選については幹事

会に一任された。

8. 臨時評議員会開催の件

幹事会より、審議事項5,6,7について早急な対応が必要なため、2006年5月14日から18日の地球惑星科学連合大会期間中の「第四紀」セッション開催日などに臨時の評議員会を開催すること、この時に学会賞等に関する規定改定原案を幹事会が報告し審議すること、知的財産権などに関する検討委員会の中間報告をおこなうことが提案され、承認された。

9. 名誉会員候補者選考委員会設置の件

幹事会より、50周年記念大会にあわせて名誉会員の選考のための標記委員会設置が提案され、承認された。選考規定により委員数は若干名とし、会長が委嘱することが確認された。

[その他]

1. IYPE の件

井内美郎評議員より、2007年～2009年がIYPE (International Year of Planet Earth)として2005年12月の国連総会で決議されたことが紹介された。

2. 高精度¹⁴C年代測定研究委員会公開シンポジウムの件

中村俊夫委員長より、3月21日の公開シンポジウムの案内がされた。

3. シャックルトン教授逝去(1月24日)の件

町田会長より、昨年来日したINQUA前会長のN. シャックルトン教授の訃報と学会として弔辞を送る件が報告された。

2005年度第4回幹事会議事録

日時：2006年1月7日(土) 13:00～17:00

会場：早稲田大学教育学部616室にて

出席者：町田 洋(会長)、真野勝友(副会長)、斎藤文紀、鈴木毅彦、兵頭政幸、遠藤邦彦、奥村晃史、水野清秀、中川庸幸(事務局)、久保純子
欠席者：池原 研、岡崎浩子

議事

[. 通常議事]

1. 庶務(久保)

会員消息(11月・12月入退会)

団体会員は契約期間終了次第丸善扱いに移行中、海外会員の会費クレジット扱いを開始した、会費長期未納者についての処分は学会事務センター破産に伴う混乱があったため延期する。

評議員による学会賞選考委員会委員選挙結果の報告(平川一臣、百原 新、河村善也、松島義章、公文富士夫各会員、次点は福岡孝昭会員)

論文賞推薦依頼を第四紀通信に掲載する。

学振科研費審査委員情報提供候補者については評議員による投票をとりまとめ中。

転載許可:投稿中の原稿の場合は受理掲載決定後に受付けることとした。

2. 会計(鈴木)

12月末時点での中間報告。

研究委員会への予算配分を早めにおこないたい(委員長へ請求を依頼する)。

通帳・印鑑の管理方法確認

3. 編集(庶務代読)

編集状況の報告。

島根大会特集号、千葉シンポジウム特集の状況報告。

44巻6号の中村論文の印刷ミスとその対応について。

著作権等委議承諾書のフォームが完成していないため、提出開始を延期したい。

4. 行事(遠藤・水野)

2006年大会日程(8月4～6日)

巡検一般公募の応募状況(1件のみ)

2007年大会開催候補地の件

5. 広報(兵頭)

第四紀通信2月号の件(原稿は1/10までに)

会員メーリングリスト運用の件

6. 渉外(奥村)

日本地球惑星科学連合の件

7. 企画(水野・奥村)

1月29日シンポジウム準備状況

講習会の件(古地磁気による第四紀堆積物の研究法)

8. その他

1)50周年記念事業実行委員会報告(11月19日・12月17日)

第四紀通信次号に募金の案内を掲載

記念シンポジウムのスケジュール

表彰、名誉会員推薦

博物館連携行事(産総研標本館、豊橋、兵庫)

記念出版物(CD)販売の件

国際シンポジウム(2007年8月つくば)準備の件

2)新学会賞規定の件

50周年を機に学会賞を拡充をしたい件について、評議員会に提案する。

3)知的財産権などに関する検討委員会の件

学会としての具体的対応をすすめるため、評議員会で特別委員会設置を提案する。

4)臨時評議員会開催の件

5月の連合大会第四紀セッション開催日にあわせて臨時評議員会を開催し、学会賞規定、知的財産権などに関する検討委員会の報告・審議が必要。

5)事務局より

定期購読およびバックナンバー申し込みの案内のホームページ掲載。

[. 評議員会準備]

1月29日開催予定の評議員会の準備(進行確認、資料準備)をおこなった。

次回幹事会は2006年1月29日(日)09:30～(評議員会の前) 明治大学にて開催。

2005年度第5回幹事会議事録

日時：2006年1月29日(日) 9:30～10:00
会場：明治大学駿河台キャンパスアカデミーコモン
9階309B教室
出席者：町田 洋(会長)、真野勝友(副会長)、齋藤文紀、鈴木毅彦、池原 研、岡崎浩子、兵頭政幸、遠藤邦彦、奥村晃史、水野清秀、中川庸幸(事務局)、久保純子

(議事)

1. 評議員会資料確認
2. 転載許可

産総研「活断層に関する調査結果のデータベース」インターネット上公開希望に対し、画面上にクレジットを明示させる、二次的利用をさせないなどの条件を示すことを条件に承認した。

委員会名簿の訂正とおわび

「第四紀通信」12巻6号最後の50周年記念事業実行委員会名簿に、松浦秀治委員のお名前が脱落しておりました。おわびの上、訂正させていただきます。(庶務)

(正) 50周年記念事業実行委員会

熊井久雄(委員長) 山崎晴雄(事務局長)

岩田修二 遠藤邦彦 小野 昭 河村善也 久保純子 齋藤文紀

杉山雄一 鈴木毅彦 中村俊夫 町田 洋 松浦秀治 松島義章

真野勝友 水野清秀 三田村宗樹 御堂島 正 渡邊眞紀子

第四紀通信に情報をお寄せ下さい

第四紀通信の原稿は随時受け付けております。
広報幹事：兵頭政幸(mhyodo@kobe-u.ac.jp)宛にメールでお送り下さい。
第四紀通信は奇数月月上旬原稿締め切り、偶数月1日刊行予定としていますが、情報の速報性ということから、版下が完成した段階でホームページに掲載するよう努力しています。奇数月15日頃にはホームページにアップするようになっていますのでご利用下さい。

日本第四紀学会広報委員会 神戸大学内海域環境教育研究センター 兵頭政幸
〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1 電話 078-803-5734 Fax 078-803-5757
広報委員：松下まり子・後藤秀昭 編集書記：岩本容子

第四紀学会ホームページ <http://wwwsoc.nii.ac.jp/qr>から第四紀通信バックナンバーのPDFファイルを閲覧できます。